

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（2000年5月2日設定）	
運用方針	主として、グロースマザーファンド受益証券に投資し、RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとして、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は原則として高位を維持することとします。	
主要運用対象	ベビーファンド	グロースマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

日本株スタイルセレクトオープン

愛称：ビッグ・ウィング・ワン

三菱UFJ スタイルセレクト・ グロースファンド

愛称：飛躍

第39期（決算日：2020年3月10日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「三菱UFJスタイルセレクト・グロースファンド」は、去る3月10日に第39期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
 フリーダイヤル **0120-151034**
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、
 土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込 分配	み 期騰 落率	騰 落率	騰 落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
35期(2018年3月12日)	8,401	0	14.4	174.95	8.6	97.0	—	1,950
36期(2018年9月10日)	7,961	0	△5.2	169.85	△2.9	95.7	—	1,788
37期(2019年3月11日)	7,142	0	△10.3	159.42	△6.1	96.3	—	1,526
38期(2019年9月10日)	7,346	0	2.9	161.56	1.3	97.6	—	1,509
39期(2020年3月10日)	7,014	0	△4.5	153.05	△5.3	96.8	—	1,371

- (注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- (注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。
- (注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株式組入比率	株式先物比率
	騰 落率	騰 落率	騰 落率	騰 落率		
(期首)	円	%		%	%	%
2019年9月10日	7,346	—	161.56	—	97.6	—
9月末	7,559	2.9	165.27	2.3	96.8	—
10月末	7,853	6.9	173.88	7.6	97.2	—
11月末	8,000	8.9	178.09	10.2	97.4	—
12月末	8,225	12.0	180.53	11.7	96.8	—
2020年1月末	7,982	8.7	178.49	10.5	97.1	—
2月末	7,273	△1.0	159.43	△1.3	96.7	—
(期末)						
2020年3月10日	7,014	△4.5	153.05	△5.3	96.8	—

- (注) 騰落率は期首比。
- (注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。
- (注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第39期：2019年9月11日～2020年3月10日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第39期首	7,346円
第39期末	7,014円
既払分配金	0円
騰落率	-4.5%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ4.5%の下落となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-5.3%）を0.8%上回りました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

米中通商交渉に対する懸念が後退したことや、欧米での金融緩和姿勢などを受けて世界経済悪化への懸念が後退したことなどを背景に国内株式市況が一時的に上昇したことが、一時的な基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

国内企業の2019年10-12月期決算発表への警戒感に加えて、中国発の新型肺炎が世界的に拡大し消費や生産活動などの世界経済へ与える影響が懸念されたことなどを背景に国内株式市況が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

銘柄要因

上位5銘柄・・・エムスリー、太陽誘電、中外製薬、村田製作所、朝日インテック

下位5銘柄・・・資生堂、SCREENホールディングス、SUMCO、ファーストリテイリング、住友金属鉱山

投資環境について

▶ 国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

期首から2019年12月中旬にかけては、米中通商交渉に対する懸念が後退したことや、欧米での金融緩和姿勢などを受けて、世界経済悪化への懸念が後退したことなどから、国内株式市況は上昇しまし

た。

12月下旬から期末にかけては、国内企業の2019年10-12月期決算発表への警戒感に加えて、中国発の新型肺炎が世界的に拡大し消費や生産活動などの世界経済へ与える影響が懸念されたことなどから、国内株式市況は下落しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド

グロースマザーファンド受益証券を通じてわが国の株式に投資しています。株式実質組入比率は、運用の基本方針にしたがい95%程度の高位水準を維持しました。

▶ グロースマザーファンド

個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメン

ト力等に注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。

組入銘柄数は概ね55～65銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相对比较などを勘案し、適宜銘柄の入れ替えを行いました。当期ではSUMCO、SCREENホールディングスなど10銘柄を新規に組み入れました。また、信越化学工業、小糸製作所など15銘柄を全株売却しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-5.3%）を0.8%上回りました。

マザーファンドの保有以外の要因

信託報酬等のコストがマイナス要因となりました。

マザーファンド保有による要因

プラス要因

業種配分効果

陸運業をベンチマークに対してアンダーウェイト、精密機器をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

銘柄選択効果

エムスリー、太陽誘電をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

マイナス要因

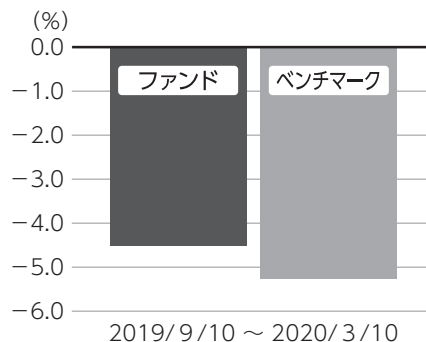
業種配分効果

金属製品を概ねベンチマークに対してオーバーウェイト、非鉄金属をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

銘柄選択効果

資生堂をベンチマークに対してオーバーウェイト、SCREENホールディングスを概ねベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

基準価額（ベビーファンド）とベンチマークの対比（騰落率）



分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第39期 2019年9月11日～2020年3月10日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	623

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド

今後もグロースマザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

▶グロースマザーファンド

基本的に企業の中長期成長性が高いことを重視しています。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討してい

く方針です。

国内株式市況は、新型肺炎問題を絶えず警戒しつつも、米国経済の相対的な安定感や各国の金融緩和などに支えられ、中期的には堅調に推移すると予想しています。ファンダメンタルズ的にも新型肺炎問題が終息すれば企業マインドが改善して世界の経済活動は正常化へ向かうとみられ、国内経済については大規模な経済対策が今後の景気を下支えすると考えています。この様な背景から企業業績への改善期待が株式市況にプラス寄与すると予想され、今後も綿密に企業業績を確認しながら銘柄選択を行っていく方針です。

2019年9月11日～2020年3月10日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	74	0.930	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(35)	(0.437)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(35)	(0.437)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(4)	(0.055)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.028	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(2)	(0.028)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	76	0.959	

期中の平均基準価額は、7,915円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

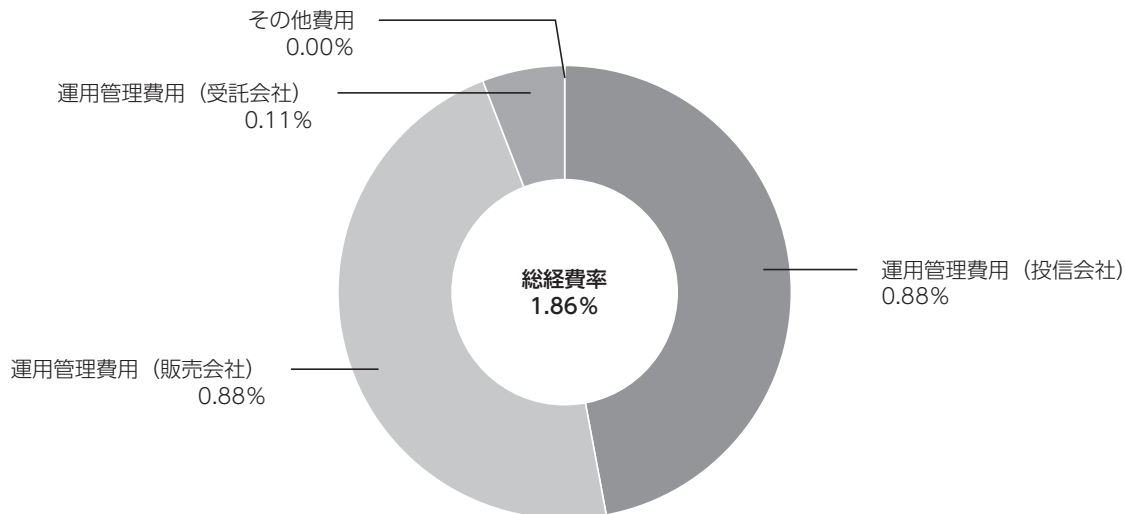
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.86%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2019年9月11日～2020年3月10日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
グロースマザーファンド	千口 39	千円 41	千口 83,216	千円 93,191

○株式売買比率

(2019年9月11日～2020年3月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	グロースマザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	908,891千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,390,673千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.38	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2019年9月11日～2020年3月10日)

利害関係人との取引状況

<三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド>

該当事項はございません。

<グロースマザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 369	百万円 70	% 19.0	百万円 539	百万円 109	% 20.2

平均保有割合 63.6%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	438千円
うち利害関係人への支払額 (B)	87千円
(B) / (A)	20.0%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2020年3月10日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
グロースマザーファンド	1,468,816	1,385,639	1,369,843

○投資信託財産の構成

(2020年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グロースマザーファンド	1,369,843	98.7
コール・ローン等、その他	18,029	1.3
投資信託財産総額	1,387,872	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,387,872,069
コール・ローン等	17,908,222
グロースマザーファンド(評価額)	1,369,843,351
未収入金	120,496
(B) 負債	16,791,727
未払解約金	2,032,336
未払信託報酬	14,736,876
未払利息	33
その他未払費用	22,482
(C) 純資産総額(A-B)	1,371,080,342
元本	1,954,708,408
次期繰越損益金	△ 583,628,066
(D) 受益権総口数	1,954,708,408口
1万口当たり基準価額(C/D)	7.014円

<注記事項>

- ①期首元本額 2,054,542,361円
 期中追加設定元本額 396,298円
 期中一部解約元本額 100,230,251円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.7014円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は583,628,066円です。

③分配金の計算過程

項 目	2019年9月11日～ 2020年3月10日
費用控除後の配当等収益額	－円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	517,288円
分配準備積立金額	121,278,141円
当ファンドの分配対象収益額	121,795,429円
1万口当たり収益分配対象額	623円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

○損益の状況 (2019年9月11日～2020年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 1,558
受取利息	27
支払利息	△ 1,585
(B) 有価証券売買損益	△ 50,304,346
売買益	7,894,924
売買損	△ 58,199,270
(C) 信託報酬等	△ 14,759,358
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 65,065,262
(E) 前期繰越損益金	△344,028,524
(F) 追加信託差損益金	△174,534,280
(配当等相当額)	(517,200)
(売買損益相当額)	(△175,051,480)
(G) 計(D+E+F)	△583,628,066
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△583,628,066
追加信託差損益金	△174,534,280
(配当等相当額)	(517,288)
(売買損益相当額)	(△175,051,568)
分配準備積立金	121,278,141
繰越損益金	△530,371,927

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

グロースマザーファンド

《第39期》決算日2020年3月10日

[計算期間：2019年9月11日～2020年3月10日]

「グロースマザーファンド」は、3月10日に第39期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第39期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式の中から、将来の成長が期待できる銘柄に投資します。銘柄選定にあたっては、ファンドマネジャーおよび当社アナリストの企業訪問調査をベースにした、企業の定性評価（企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目します。）を重視します。株式の組入比率は原則として高位を維持することとします。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰	中 落 率	期 騰	中 落 率			
	円	%		%	%	%	百万円
35期(2018年3月12日)	11,416	15.5	174.95	8.6	97.2	—	3,107
36期(2018年9月10日)	10,918	△ 4.4	169.85	△2.9	95.9	—	2,999
37期(2019年3月11日)	9,883	△ 9.5	159.42	△6.1	96.6	—	2,528
38期(2019年9月10日)	10,261	3.8	161.56	1.3	97.7	—	2,371
39期(2020年3月10日)	9,886	△ 3.7	153.05	△5.3	96.9	—	2,133

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2019年 9月10日	円	%		%	%	%
	10,261	—	161.56	—	97.7	—
9月末	10,569	3.0	165.27	2.3	97.1	—
10月末	10,998	7.2	173.88	7.6	97.4	—
11月末	11,222	9.4	178.09	10.2	97.6	—
12月末	11,556	12.6	180.53	11.7	97.1	—
2020年 1月末	11,231	9.5	178.49	10.5	97.3	—
2月末	10,246	△ 0.1	159.43	△ 1.3	96.9	—
(期 末) 2020年 3月10日	9,886	△ 3.7	153.05	△ 5.3	96.9	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

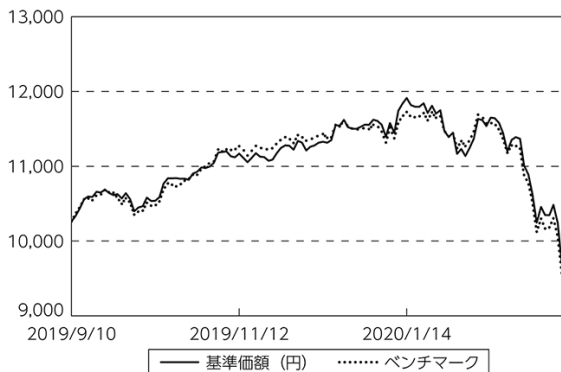
◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ3.7%の下落となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(－5.3%)を1.6%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

米中通商交渉に対する懸念が後退したことや、欧米での金融緩和姿勢などを受けて世界経済悪化への懸念が後退したことなどを背景に国内株式市況が一時的に上昇したことが、一時的な基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

国内企業の2019年10－12月期決算発表への警戒感に加えて、中国発の新型肺炎が世界的に拡大し消費や生産活動などの世界経済へ与える影響が懸念されたことなどを背景に国内株式市況が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

(銘柄要因)

上位5銘柄…エムスリー、太陽誘電、中外製薬、村田製作所、朝日インテック
下位5銘柄…資生堂、SCREENホールディングス、SUMCO、ファーストリテイリング、住友金属鉱山

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・国内株式市況は下落しました。
- ・期首から2019年12月中旬にかけては、米中通商交渉に対する懸念が後退したことや、欧米での金融緩和姿勢などを受けて、世界経済悪化への懸念が後退したことなどから、国内株式市況は上昇しました。
- ・12月下旬から期末にかけては、国内企業の2019年10-12月期決算発表への警戒感に加えて、中国発の新型肺炎が世界的に拡大し消費や生産活動などの世界経済へ与える影響が懸念されたことなどから、国内株式市況は下落しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。
- ・組入銘柄数は概ね55~65銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相对比较などを勘案し、適宜銘柄の入れ替えを行いました。当期ではSUMCO、SCREENホールディングスなど10銘柄を新規に組み入れました。また、信越化学工業、小糸製作所など15銘柄を全株売却しました。

●当該投資信託のベンチマークとの差異について
(プラス要因)

- ・業種配分効果：陸運業をベンチマークに対してアンダーウェイト、精密機器をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。
- ・銘柄選択効果：エムスリー、太陽誘電をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

- ・業種配分効果：金属製品を概ねベンチマークに対してオーバーウェイト、非鉄金属をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・銘柄選択効果：資生堂をベンチマークに対してオーバーウェイト、SCREENホールディングスを概ねベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

○今後の運用方針

- ・基本的に企業の中長期成長性が高いことを重視しています。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。
- ・国内株式市況は、新型肺炎問題を絶えず警戒しつつも、米国経済の相対的な安定感や各国の金融緩和などに支えられ、中期的には堅調に推移すると予想しています。ファンダメンタルズ的にも新型肺炎問題が終息すれば企業マインドが改善して世界の経済活動は正常化へ向かうとみられ、国内経済については大規模な経済対策が今後の景気を下支えすると考えています。この様な背景から企業業績への改善期待が株式市況にプラスに寄与すると予想され、今後も綿密に企業業績を確認しながら銘柄選択を行っていく方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2019年9月11日～2020年3月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 3 (3)	% 0.028 (0.028)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	3	0.028	
期中の平均基準価額は、11,110円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2019年9月11日～2020年3月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		116	369,277	172	539,613
		(1)	(-)		

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2019年9月11日～2020年3月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	908,891千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,390,673千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.38

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2019年9月11日～2020年3月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
		百万円	%		百万円	%
株式	369	70	19.0	539	109	20.2

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	690千円
うち利害関係人への支払額 (B)	138千円
(B) / (A)	20.0%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2020年3月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
建設業 (2.2%)				
コムシスホールディングス	12.5	12.3	33,283	
大成建設	4	3.9	12,987	
食料品 (3.6%)				
ヤクルト本社	3.2	3.1	16,089	
ニチレイ	15.4	15.1	42,023	
日清食品ホールディングス	—	1.9	15,485	
繊維製品 (—%)				
東レ	29.6	—	—	
化学 (4.0%)				
昭和電工	8.8	—	—	
信越化学工業	6	—	—	
J S R	—	5	8,870	
宇部興産	5.3	—	—	
資生堂	13.3	11.5	74,566	
小林製薬	2.2	—	—	
医薬品 (10.3%)				
塩野義製薬	6.2	3.8	20,599	
日本新薬	3.5	3.4	24,820	
中外製薬	3.1	3	33,675	
エーザイ	3.8	—	—	
第一三共	16.1	14.8	94,054	
大塚ホールディングス	7.2	5.5	20,790	
ペプチドリーム	4.4	4.3	19,307	
ガラス・土石製品 (—%)				
東海カーボン	2	—	—	
非鉄金属 (1.1%)				
住友金属鉱山	6.5	10	23,615	
金属製品 (3.5%)				
SUMCO	—	47.2	72,404	
機械 (5.0%)				
SMC	1.2	1.2	47,856	
クボタ	13.2	—	—	
ダイキン工業	2.3	2.3	30,636	
ダイフク	4.3	4.2	24,066	
電気機器 (27.8%)				
イビデン	—	7.6	17,198	
日立製作所	2.7	—	—	
富士電機	6.3	6.2	15,723	
安川電機	9.3	9.1	27,072	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
日本電産	5.2	5.1	65,254	
アンリツ	11.6	11.4	19,824	
ソニー	8.8	8.4	53,919	
横河電機	11.4	—	—	
アドバンテスト	—	5.4	25,866	
キーエンス	1.7	3.3	107,877	
レーザーテック	—	1.8	8,991	
山一電機	4.7	4.6	6,950	
ファナック	0.1	0.1	1,608	
ローム	1.3	—	—	
太陽誘電	18.4	14	42,490	
村田製作所	13.4	12.8	69,696	
小糸製作所	6.7	—	—	
S C R E E Nホールディングス	—	7.3	37,449	
東京エレクトロン	3.5	3.4	74,953	
輸送用機器 (2.0%)				
いすゞ自動車	13.9	—	—	
トヨタ自動車	3.7	3.6	23,760	
日野自動車	0.6	0.6	452	
本田技研工業	—	6.4	16,272	
精密機器 (8.7%)				
テルモ	16.2	15.9	54,266	
島津製作所	8.5	—	—	
オリンパス	—	6.7	12,807	
HOYA	3.4	5.5	51,403	
朝日インテック	23.8	22.6	61,765	
その他製品 (3.6%)				
ヤマハ	4.3	4.2	19,908	
任天堂	1.5	1.5	54,285	
陸運業 (1.1%)				
京成電鉄	5.1	5	16,225	
ヤマトホールディングス	6.5	3.7	5,860	
情報・通信業 (10.1%)				
T I S	11	10.8	64,476	
Zホールディングス	65	63.9	24,026	
日本ユニシス	—	3.5	10,885	
KDDI	9.3	9.1	29,320	
NTTドコモ	4.7	—	—	
ソフトバンクグループ	26.6	18.1	79,422	

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
小売業 (8.8%)			
スシローグローバルホールディングス	3.5	3.4	24,140
パン・パシフィック・インターナショナルホ	29.2	28.7	52,894
丸井グループ	11.3	11.1	21,767
ニトリホールディングス	1	1	14,430
ファーストリテイリング	1.3	1.3	68,575
不動産業 (0.4%)			
三井不動産	4.3	4.2	9,139

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
サービス業 (7.8%)			
エムスリー	23.4	23	68,425
オリエンタルランド	3	3	39,450
トレンダーズ	9.8	9.6	4,867
リクルートホールディングス	17.6	13.9	48,219
合 計	株 数・金 額	587	533
	銘柄数<比率>	64	59
			<96.9%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2020年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 2,067,044	% 96.9
コール・ローン等、その他	66,401	3.1
投資信託財産総額	2,133,445	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,133,445,693
コール・ローン等	64,781,943
株式(評価額)	2,067,044,350
未収配当金	1,619,400
(B) 負債	174,168
未払解約金	174,046
未払利息	122
(C) 純資産総額(A-B)	2,133,271,525
元本	2,157,781,671
次期繰越損益金	△ 24,510,146
(D) 受益権総口数	2,157,781,671口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,886円

<注記事項>

- ①期首元本額 2,311,552,557円
 期中追加設定元本額 11,882,008円
 期中一部解約元本額 165,652,894円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.9886円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJスタイルセレクト・グロースファンド	1,385,639,643円
三菱UFJスタイルセレクト・ブレンドファンド	772,142,028円
合計	2,157,781,671円

- ③純資産総額が元本額を下回っており、その差額は24,510,146円です。

○損益の状況 (2019年9月11日～2020年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	14,600,875
受取配当金	14,610,485
受取利息	194
その他収益金	237
支払利息	△ 10,041
(B) 有価証券売買損益	△ 81,153,167
売買益	118,130,388
売買損	△199,283,555
(C) 当期損益金(A+B)	△ 66,552,292
(D) 前期繰越損益金	60,418,515
(E) 追加信託差損益金	1,128,192
(F) 解約差損益金	△ 19,504,561
(G) 計(C+D+E+F)	△ 24,510,146
次期繰越損益金(G)	△ 24,510,146

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。